

韓国の日本語学研究の今後の方向性

朴 海煥

要 旨

今回のコンソーシアムのテーマは「『日本』とはなにか」である。この問いは「日本」の何を、どのような観点から、どのような方法で捉えればいいのかという問題ともつながる。言うまでもなく日本語学は日本学という地域学の一分野で、韓国人の日本語学研究者にとって「日本語学の研究はどうあるべきか」ということは重要な問題である。本発表では韓国における日本語学研究、また韓国人日本語学研究者にとっての日本語学研究のあるべき姿について考えてみることで「『日本』とはなにか」という問いを解釈してみたいと思う。

韓国における日本語学研究の規模は近年に至って急激な増大の傾向を見せている。研究の規模の拡大は基本的に望ましいことではあるが、それとともに限界や問題点をも少なからず露呈されている。本発表は韓国の日本語学研究の規模の全体像を把握した後、その環境やシステム及び内容や観点について問題点と思われることを検討し、それに対する今後の方向性を考えてみることを目的とする。具体的には、韓国の日本語学研究の環境やシステムの面からは「研究の量と質とのバランス、学会や学術誌の性格、交流と疎通の問題、専門分野別の研究活動の必要性、大大学院生に対する効果的な指導方法」などに関する内容について、韓国の日本語学研究の内容や観点の面からは「韓国における日本語教育研究の方向性、韓国における日韓語対照研究の方向性、分野間の融・複合研究と他分野との連携研究、長期的な視野と計画に基づいた研究活動、長期的な企画と研究による出版活動」などに関する内容についてその問題点及び方向性を考えてみることにする。